

第7回村上市保育園等施設整備計画審議会 会議録

会 議 名	第7回村上市保育園等施設整備計画審議会
日 時	令和3年12月24日（金）午後2時00分～午後3時25分
会 場	村上市役所本庁5階 第5会議室
出 席 者	委員：12人（仲委員、松田委員、長委員、川村委員、黒坂委員、渡辺委員、小川委員、佐藤委員、井上委員、和田委員、中村委員、上島委員）
	欠席委員：斎藤委員、黒子委員、本間委員、
	事務局：中村こども課長、荒川支所地域振興課 瀬賀課長補佐、朝日支所地域振興課 中嶋課長補佐、山北支所地域振興課 斎藤課長補佐、山辺里保育園 菅原園長、高南保育園 斎藤園長、みのり保育園 高橋園長、金屋保育園 小林園長、山北そらいろ保育園 板垣園長、こども課 小林副参事、石山係長、高橋室長、渡辺係長

会議録

1 開 会

2 会長挨拶

※委員15名中12名の出席により審議会成立を報告。

3 議 事

（1）パブリックコメントの結果について事務局からの説明

委 員：今回実施したパブリックコメントの意見は多い方と考えているか。

こども課：同時期に行った他のパブリックコメントと比較しても多いと考える。

委 員：今回のパブリックコメントの意見が多いということを市はどのように捉えているか。また、この意見に対する市の考え方の案の文言では、この意見をどれだけ大切に回答していただいているのかが伝わらない。

こども課：パブリックコメントの意見を募集したのは、計画案に対するものであり、計画に関するもの以外の回答は制度として難しい。

委員：制度上やむをえない部分もあると思うが、意見を提出していただいた方にそっけない印象がある。

こういう時にしっかり答えていくことが、市民と行政のチームワークを作っていくのではないかな。なるべく心ある回答をしていただければと考える。

こども課：パブリックコメントは、計画に対して意見を求めているものであり、それに対しての市の考え方を回答するもので、どうしても回答はこの形での回答になる。ただ、別な機会を捉えて説明していくようにしたい。

委員：No.7について計画の文言の修正は理解できるが、この意見の提出者はどのように待機児童の問題が解決できるかを示してほしいという意見だと思う。回答は、努力するとのことしかない。もう少し具体的に市民に分かりやすい解決の取り組みを市民に示すべきではないか。

こども課：途中入所の受け入れが難しい現状は、この会でも説明しているが、保育士の不足が一番の要因となっている。市としても計画案にも記載しているとおり、資格取得の補助などの取り組みを行いながら早急な解消は難しいが、少しずつでも解消に向けて進めている。この意味も込めて保育士の確保に努めていくと回答とさせていただいた。

委員：年度途中の待機児童について、受け入れ可能な保育園等の情報等の発信を適宜していればこういう意見も出ないのではないかな。情報発信が大切ではないかな。

会長：委員の意見のとおり保護者、希望者が情報をキャッチできるような体制に努めていただきたい。

委員：No.7について自身の体験として、保育園は年度途中でも入園できるものと思い、会社にはこの月から復帰する旨報告し、年度途中で入園の申し込みを行ったが、入園できず、認可外の保育園を利用することになった。

年度途中の入園が難しいというなど、保育園の現状の情報発信が少ない。入園できるつもりで申し込んでも入園できないことになると不満もより強くなると思う。

村上総合病院などと連携し、母親学級などで保育園の状況を父母に発信するなど、先に理解を求めていくことも必要と思う。

また、回答案の一時預かりの件については、比較的簡単に改善できるものだと思うので回答とは別にすぐにでも取り組んでいただきたい。

こども課：実際の体験を交えての意見であり、非常に参考になった。実際にできることは、意見を活かせて取り組む。

一時預かりの件については、検討しており、なるべく早く実施したいと考えている。

委員：実際周知されていないと改善された取り組みも活かさないのでは周知もしっかりやっていただきたい。

## (2) 第3次村上市保育園等施設整備計画（案）について事務局からの説明

委員：P 1（2）計画の位置付けの各計画のイメージの矢印はどのような関係となっていることを示しているのか。

こども課：このイメージ図は、市の上位計画からの委任、具体化を示すために矢印として示した。

委員：学童保育所については、パブリックコメントでも二つの意見があり、一つは、児童の安心・安全のために学校内に開設、もう一つは、支援員の質の向上であった。村上市として具体的な考え方を絞って示していく時期ではないか。

自身としては、学童保育所は、学校内に開設できれば安心・安全であり、学校との連携・学校との連携を通した質の向上が図れるのではないかと考える。

こども課：計画P 1 2からP 1 3にも示しているとおり、空き教室、空き施設を活用して開設に取り組んでいきたい。学校としては、空き教室がないということも聞いているが、学校に学童保育所の必要性を説明しながら理解を得ながら取り組んでいきたい。

現在の支援員は、会計年度任用職員が担っており、都度の連絡等、連携を図っている。また、月1回の会議、年数回の研修を通して質の向上を図っている。

学校の空き教室が確保できれば、学校との連携が図られると考えている。

委員：学童保育所の支援員と直接話す機会があり、支援員は学校と連携して児童の学童保育にあたりたいという気持ちが強いと感じた。学校からの情報がまだ十分ではなく、利用している児童の状況が分からない。学校から十分な情報があれば、より良い保育ができ、保護者とも良好な関係が築ける。その思いからも学校内にあれば学校との連携、情報共有も図られ、より良い保育が確保できるのではないか。村上市として学童保育所はこの考え方で学校内の空き教室を利用した方向で行くと示していくべきではないか。

こども課：学校との連携については、学校、教育委員会と協議し改善に向け取り組んでいきたい。

委員：学校内に学童保育所を開設することについては、学校との連携等、有効なことだと考える。

パブリックコメントにより意見のあった件について、村上南小学校に確認させていただいた。

現状、プレイルームがなんしょクラブとして3年生以上の学童保育所を開設している。パブリックコメントでは、1・2年生が利用すべきではないかとの意見だが、1・2年生は5時間授業であり、その間プレイルームを学童として開設していると他学年がプレイルームでの教育活動で使えなくなってしまうことから3年生以上の利用となっている。

空き教室の活用による開設については、他学年が授業を行っている中、学童保育所として開設することになり、その間は、静かに利用してもらうことになる。利用児童に窮屈な思いをさる保育環境になってしまうことが懸念される。

また、空き教室があっても、教材の置き場、児童とのマンツーマンによる対話の場所として必要な状況である。学校としても協力できることは、積極的に協力したいが、このような課題があることから、この課題を調整していきながら進めていくことが必要と考える。

会 長：教育委員会と連携し、学童保育の場所の確保に努めていただきたい。また、学校との情報共有を図りより良い学童保育に努めていただきたい。

こども課：この計画が確定次第、教育委員会、学校と協議をしていきたい。

委 員：P 3（１）で出生数の減少や若者の市外流出が急激な人口減少の原因と記載されているが、子育て世帯の市外流出も原因となっていると思われる。村上市の人口ビジョンでは２０２０年から高齢者も人口減少に転じており、全世代において減少することになる。

それを少しでも歯止めするためにも、子どもたちを将来にわたって村上市に定着してもらうよう村上市でその子どもを育む必要がある。今いる児童を村上市に定着していただくような仕組みづくりをしていただき、第４次、第５次計画も策定すると思われるがこの文言が少しでも改善されているような仕組みづくりをしていっていただきたい。

こども課：総合計画、総合戦略等、この計画以外の計画と連携しながら人口減少問題に取り組んでいきたい。

委 員：この場で審議したことが少しずつでも具体的に、また実現していただきたい。

委 員：少しでもできることから取り組んでこの計画を実現していただきたい。

委 員：より良い村上市を作るのであれば、この会議の皆さんからの意見、パブリックコメントでの意見を少しでも早く、実施、実現していただきたい。また、先の委員から意見のあった情報共有、情報発信については、すぐにでもできるし非常に大切なことなので実施していただきたい。

こども課：できることは、早急に取り組んでいきたい。

委 員：この計画は、この審議会でも真剣に審議した結果であるので、着実に実行していただきたい。人口減少については、雇用・給付等、様々な要因があると思われるので他の事例を参考にしながら取り組んでいただきたい。

委 員：計画を作ることも大変だが、計画を実行することはもっと大変であるが、大切である。村上市の子どもたちのためにも着実に計画を実施していただきたい。

<答申案について採決…出席者全員賛成により答申案確定となる。>

4 その他 特になし

5 閉会のあいさつ 渡辺副会長

午後３時２５分 終了

午後４時 仲会長、渡辺副会長が市長へ答申